

# レスポンスブル・ケア活動の目標と実績

環境や安全に関する各種課題に対して、目標を設定し、継続的改善に取り組んでいます。  
また、環境保全対策に要したコストとその効果を評価するために、環境会計を実施し公表しています。

## ●2018年度レスポンスブル・ケア活動実績および2019年度目標

項目	2018年度 目標	実績	自己評価	2019年度 目標
環境保全	環境負荷の低減 全社的なエネルギー管理と 省エネルギーの推進	エネルギー原単位 前年度比 2.2%減少 (P19)	○	環境負荷の低減 全社的なエネルギー管理と 省エネルギーの推進
	排水の自主管理基準値以下での管理	COD排出量 前年度比 14.1%減少 (P20)	○	排水の自主管理基準値以下での管理
	廃棄物の発生抑制および適正処理	廃棄物等総発生量 前年度比 11.0%増加 (P20)	×	廃棄物の発生抑制および適正処理
労働安全衛生	労働災害の撲滅 作業環境の改善	休業災害 3件 (P21)	×	労働災害の撲滅 作業環境の改善
保安防災	設備災害の撲滅	設備災害 0件	○	設備災害の撲滅
物流安全	物流安全の確保	物流事故 0件	○	物流安全の確保
化学品・製品安全	化学品・製品の安全確保	重大製品事故 0件	○	化学品・製品の安全確保
社会との対話	社会への情報公開推進 地域社会との交流推進	「HOKKOレポート2018」発行 各事業所において地域社会との交流を推進 (P24)	○	社会への情報公開推進 地域社会との交流推進

## ●環境会計 集計範囲：当社単体 対象期間：2017年12月1日～2018年11月30日

### 環境保全コスト

単位:百万円

分類	主な取り組み内容	投資額	費用額
1 事業活動により事業エリア内で生じる環境負荷を抑制するための環境保全コスト(事業エリア内コスト)	公害防止コスト	48	117
	地球環境保全コスト	65	0
	資源循環コスト	8	171
	製品等の回収、適正処理、物流事故未然防止対策等	0	10
2 事業活動に伴ってその上流または下流で生じる環境負荷を抑制するための環境保全コスト(上・下流コスト)	製品等の回収、適正処理、物流事故未然防止対策等	0	10
3 管理活動における環境保全コスト(管理活動コスト)	環境マネジメントシステムの整備・運用、環境情報の開示、環境負荷監視、従業員への環境教育、緑化対策等	6	72
4 研究開発活動における環境保全コスト(研究開発コスト)	環境負荷抑制のための研究開発、各種評価・試験費用等	0	63
5 社会活動における環境保全コスト(社会活動コスト)	地域住民に対する情報提供等	0	1
6 環境損傷に対応するコスト(環境損傷対応コスト)	—	0	0
合計		127	434

- \*投資額：環境保全に関する設備投資
- \*費用額：環境保全に関する減価償却費、維持運営費
- \*四捨五入により、合計値が一致しない場合があります。

### 環境保全効果

環境保全効果の分類	環境パフォーマンス指標(単位)	2017年度	2018年度	対前年増減量
事業活動に投入する資源に関する環境保全効果	総エネルギー投入量 (kl)	11,698	11,738	40
	上水道使用量 (千m <sup>3</sup> )	361	398	37
事業活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する環境保全効果	CO <sub>2</sub> 排出量 (t-CO <sub>2</sub> )	32,302	31,943	-359
	COD排出量 (t)	14.9	12.8	-2.1
	廃棄物等総排出量 (t)	5,539	6,228	688
	リサイクル量 (t)	4,113	3,969	-143
	廃棄物最終処分量 (t)	434	547	113

### 環境保全効果に伴う経済効果 単位:百万円

効果の内容	金額
有価物売却額	9

\*環境省「環境会計ガイドライン2005年版」、(社)日本化学工業協会、日本レスポンスブル・ケア協議会「化学企業のための環境会計ガイドライン」に準じて算定しています。